

ねがい

若松優子

生きづらい 心のまま  
ひつもひとり 自分の半分を  
湖の底の 音のない 砂の底に  
うずめている

いつか もう半分の私とも 溶け合って  
優しい光となれる日を  
待ちながら

その時 私の魂の花は  
湖の底で 小さく揺れる